

(26)-2 耐震対策 ベランダ手摺完全スリット目地のシール工法

ベランダ端部のスリット切込み目地部分のシール

施工手順	施工方法	ベランダスリット部分概念図	作業イメージ
施工部分の確定	<ul style="list-style-type: none"> 設計管理者と事前打合わせ及び探査確認で埋設管類、鉄筋の位置を確認して切損事故防止策を講じる。 施工場所を確定し、設計図書に準拠し墨出しを行う。 		
カッター切、端部コア抜き	<ul style="list-style-type: none"> 墨打ちに沿って、ウォールソーで所定の深さまで切込み、ウォールソーで切込めない端部はコア抜きにより切込む。 コア抜き及び、ウォールソー切込み作業時の汚泥水対策養生及び部屋内への侵入防止処置を充分に行う。 (ひび割れに沿って階下室内侵入等の無い事を確認する。) 		
目地の研り込み 汚泥除去清掃	<ul style="list-style-type: none"> 設計寸法になる様に端部コア抜き部分を研込みケレンする、コア抜き及びウォールソー切削時に付着した汚泥スラッジをワイヤーブラシで除去清掃する。 		
目地表面形状の修正	<ul style="list-style-type: none"> スリット切込み表面通りを平行した直線に切削する、欠損や不陸がある場合はポリマーセメントモルタルの金ゴテ押さえにより不陸修正し充分に乾燥させる。 プライマー：VPセメントプライマー (主剤8kg:硬化剤5kg) 断面修復材：VPセメントL(主剤10kg:硬化剤5kg:水0~0.2kg) 耐火性が要求されない場合はボンドKモルタルを使用する。 		
耐火材の挿入	<ul style="list-style-type: none"> スリット切込み目地内へ、設計寸法に切出した耐火材を挿入する。(指定無き場合は、ロックウール) 		
部分スリット材の挿入	<ul style="list-style-type: none"> 耐火材挿入後、設計指示が有る場合は指定スリット材を装填する。(指定無き場合は、ロックウール) 		
バックアップ材の装填	<ul style="list-style-type: none"> 部分スリット材の挿入後シールバックアップ材を装填する。(指定が有る場合は指定品を使用) 		
マスキングテープ養生	<ul style="list-style-type: none"> スリット切込み目地部分の周囲を、マスキングテープ貼り養生を行いテープの貼付けは、シールの接着面に喰込まない様に貼付ける。 		
プライマー塗布	<ul style="list-style-type: none"> プライマーは被着体やシール材に適合する製品を選定し接着部分へ既定量のプライマーを塗布する。 塗りムラ塗り残しが無い様に均一に塗布し、吸込みが著しい場合は、2度塗を行う。プライマー:(ボンドシールプライマー#9) 		
シール材の混合	<ul style="list-style-type: none"> 混合はセット単位で行い専用混合機で攪拌し、シール基材、硬化剤、着色材を投入後10分以上攪拌し羽根や容器側面のシール材を搔落とし再混合する。 指定無き場合は耐火シール(ボンドFRシール)を使用する。 		
シーリング材充填	<ul style="list-style-type: none"> 専用ガンに、混合したシール材を空気が入らない様に吸込み目地底からゆっくりと充填し目地内へ空気溜りが残留しない様に充填する。 混合したシール材は、可使時間内に施工する。 		
ヘラ仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> シール充填後、直ちにヘラ押さえを行い表面を平滑に仕上げる。 		
マスキングテープ除去清掃	<ul style="list-style-type: none"> ヘラ押さえ後、直ちにマスキングテープを除去する。 		
完了			